

「馬場小室山遺跡フォーラム」第 89 回ワークショップ

【復興の原動力！パブリック・アーケオロジー2018】

馬場小室山遺跡とまちづくり環境の「かわり」から、「山田湾文化」の復興パブリック・アーケオロジーへ

＜馬場小室山遺跡研究の新展開—縄文塚(「環提土塚」集落)の終焉から地域文化の解体にみる広域連動の解明—＞

知識・経験・思考・領域等にみられる現代的限界(建て前の×や+)からの知的解放(本音の÷や-)を目指して活動します！

新展開1 (ムロ1) ～ (ムロ5) は以前のレ ジュメ参照	「ムロさま」の 「限界領域」打破 (墓場の公共性にみ る墓式と葬式、及び 「人骨集積」の真相)	馬場小室山遺跡「第51号土壙」から展望する縄文時代の葬墓式と「土器社会論」—「ムロさま」の 「累積型改新土坑墓」と「積葬墓」から探る「追埋設型土器棺集積墓」への途— (ムロ6)「焼葬」(秋田県藤枝遺跡の頭蓋骨無し)、「焼人骨集積」(岩手県蔭内遺跡)、「人骨集積」 (愛知県保美貝塚)と抜歯、そして「髑髏信仰」(長野県宮遺跡の「積葬墓」)【『古代』142】 (ムロ7)「人骨集積」と抜歯は＜犬歯＞VS＜犬歯+第1小臼歯＞の2系列が顕在化 (ムロ8)大宮台地の安行3式「土器集積」と油田遺跡の「土器棺集積」 (ムロ9)乙女不動北浦遺跡の「安行3c式」期再葬墓 (ムロ10)「再帰型再葬墓」の風習と巨大「再葬祭場」の出現【『利根川』40】 (ムロ11)山田町浜川目沢田Ⅰ遺跡における「大洞C1式」の「土器集積の風習」 (ムロ12予告)「人骨集積」から「土器集積の風習」(祭式と葬式の統合)へ【『古代』142】 (ムロ13予告)「土器集積の風習」(祭式と葬式の統合)から大型土器による「土器棺集積」へ
新展開2 (オム1) ～ (オム2) は以前のレ ジュメ参照	「オムちゃん」と 「ムロさま」との 「限界知識」打破	土偶と土面／顔面付土版／人面文土器等の関係、そして容器形土偶／顔壺へ (オム3)「仮面土偶」の発達と「突起土偶」、そして山形土偶の形成 (オム4)印旛沼と仙台湾、そして山田湾まで繋ぐ人面把手の意義 (オム5)「髑髏信仰」と「亀ヶ岡型変相イデオロギー」、そして「ムロさま」 (オム6予告)「祭式土偶」から「葬式土偶」(祭式と葬式の統合)へ (オム7予告)「髑髏信仰」は「ムロさま」から容器形土偶や顔壺の土坑墓へ 【番外】富山県の「オムちゃん」
新展開3 (シオ1) ～ (シオ3) は以前のレ ジュメ参照	「シオ(塩)もん」の 「限界経験」打破 縄文時代の製塩土 器は「採鹹・せん ごう土器」が真相！ 固形塩の物流では なく、「大形魚塩蔵 品」・「汽水系塩 煮品」に留まらず、 濃縮海水を内陸 で希釈する「淡水 魚(含む特産ウナ ギ)塩煮」の普及 か？	「製塩土器」の確立から製塩遺跡の操業へ、爆発的普及の晩期社会と「定住制」の定着 (シオ4)下布田遺跡の「製塩土器」在地性は古鬼怒湾型変遷との乖離！／枯れたアマモを特 定の場所に集めて乾燥させる「塩草場」の存在、及び天日と地熱(熱砂)利用の採 鹹・せんごう工程に相応しい「製塩土器」鉢形態の確立 (シオ5)宇都宮市刈沼遺跡からは寺野東遺跡よりも多数の「製塩土器」が検出し、在地で淡水 魚の「塩煮」が浮上。鬼怒川流域の口縁部形態は下布田遺跡(板状工具+ナデ調 整)とは大きく異なり、古鬼怒湾型変遷の1系列である口縁部水平ヘラカットが定着 (シオ6)三陸北部における「製塩土器」の年代と系統(1)久慈市大芦Ⅰ遺跡の長胴深鉢形態 と僅かな出土点数に注目した「採鹹・せんごう土器」の提唱 (シオ7)六十軒遺跡の「製塩土器」二者(古鬼怒湾ケズリ系列VS無文ナデ系列)の意義 【『利根川』40】 (シオ8)古鬼怒湾で後期から発達するウナギのブツ切りによる「ウナギ鍋」は塩煮／「採鹹・ せんごう土器」の定着に果たす古鬼怒湾ウナギ塩煮の役割に注目！ (シオ9)シカやサルが舐めていた「縄文山塩」の発見と「山塩煮」の縄文鍋
新展開4	「タマきみ(君)」の 「限界思考」打破	ヒスイ製勾玉・小玉の晩期流通(関東各地域拠点でも製作)と弥生時代中期中葉「再葬壺棺 墓」への流通実態(上越周辺北信経由)解明 (タマ1)熊谷市飯塚南遺跡の土坑墓出土ヒスイ製勾玉と飯塚遺跡群 (タマ2)長野県坂城町保地遺跡の抜歯人骨とヒスイ製垂飾品の年代【『利根川』39】

1.【地域とパブリック・アーケオロジーの底力】：各地域における自然の恵みと基層文化の形成を考えよう！

1-1.「山田湾文化と考古学」：山田湾の遺跡に学ぶ郷土の繁栄と津波被災による文化の隆替

- ・山田町の復興事業に係る埋蔵文化財発掘調査については岩手県埋蔵文化財センターから報告書の刊行が相次いでおりますので、今後とも報告書の精査を進めつつ、併せて収録データの価値を高める考古学研究の深耕も必要になります。既に大浦に所在する川半貝塚について学習しました。
- ・そこで復興10年目の節目に向けた新たな取り組みとして「山田湾文化と考古学」というテーマで総合化を図り、その過程における時々の成果そのものがパブリック・アーケオロジーの学術クレジットとなるように企画します。消費される埋蔵文化財とは一線を画して、山内清男の活用される考古学を範としたパブリック・アーケオロジーの実践を今後も継続していきます。

1-2.「山田湾まるごとスクール」によるパブリック・アーケオロジー：山田湾に学ぶ復興の原点は郷土を誇れる心！

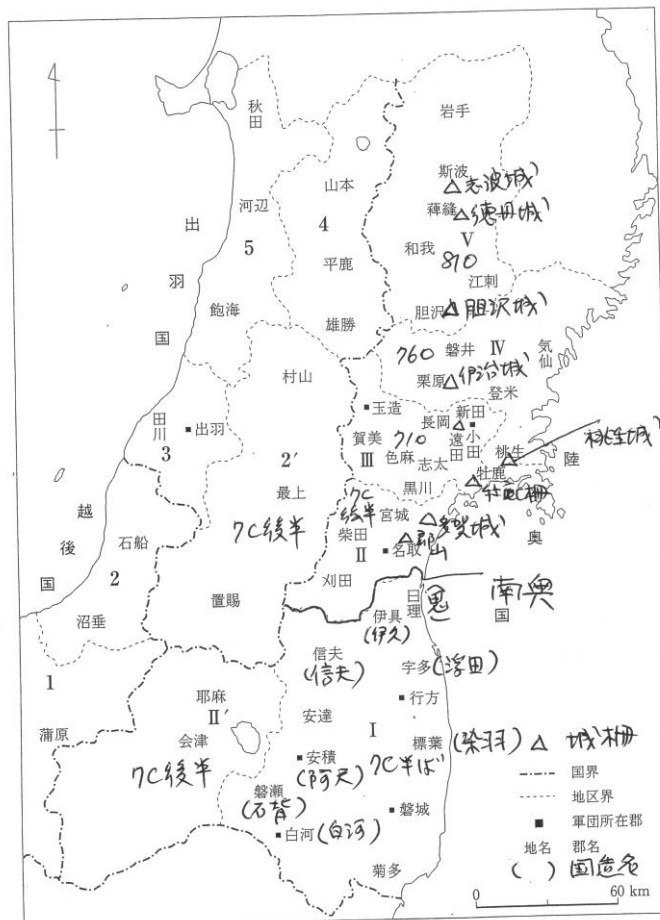
(1)「山田湾の水産考古学」：山田湾における水産資源の現在と先史・古代

- ・山田史談会との交流テーマ：①トド・イルカなどの海獣猟、②山内清男の「サケ・マス論」の真相、③コンブ漁

(2)「山田湾をのぞんだ縄文むら」：「川端弘行コレクション」のパブリック・アーケオロジー

- ・「川端弘行コレクション」の整理を通した学びにタイムリーな遺跡が見つかりました。奈良文化財研究所のHP全国報告書総覧を利用して山田町遺跡の発掘調査報告書を検索しましたところ、浜川目沢田Ⅰ遺跡を知るところとなりました。「川端弘行コレクション」の畠中遺蹟と同じ時期の拠点遺跡で、山田湾の湾央部における北と南の後晩期拠点集落になります。
- ・浜川目沢田Ⅰ遺跡は山田湾から200mの位置でリアス式の沈降を受けた地形で標高2～7m、遺構や遺物も優秀で、津波層も確認されていますので、今回の山田町へのフィードバックは浜川目沢田Ⅰ遺跡のカラー写真を活用して組み立てたいと思います。隣接する丘陵上では浜川目沢田Ⅱ遺跡も調査され、畠中遺跡と同じ弥生時代後期「赤穴式」の破片も検出されました。遊動生活の弥生時代像が見えてきます。
- ・浜川目沢田Ⅰ遺跡は完形土器が多く出土していますので、今回のパブリック・アーケオロジーは「川端弘行コレクション」の口縁部破片を見て、浜川目沢田Ⅰ遺跡の完形土器のどの部分に比定されるのか、推理したいと思います。

(3)「山田湾の蝦夷考古学」：房の沢古墳群を形成した蝦夷社会のパブリック・アーケオロジー



※ 政治支配の観点からの地区区分である。

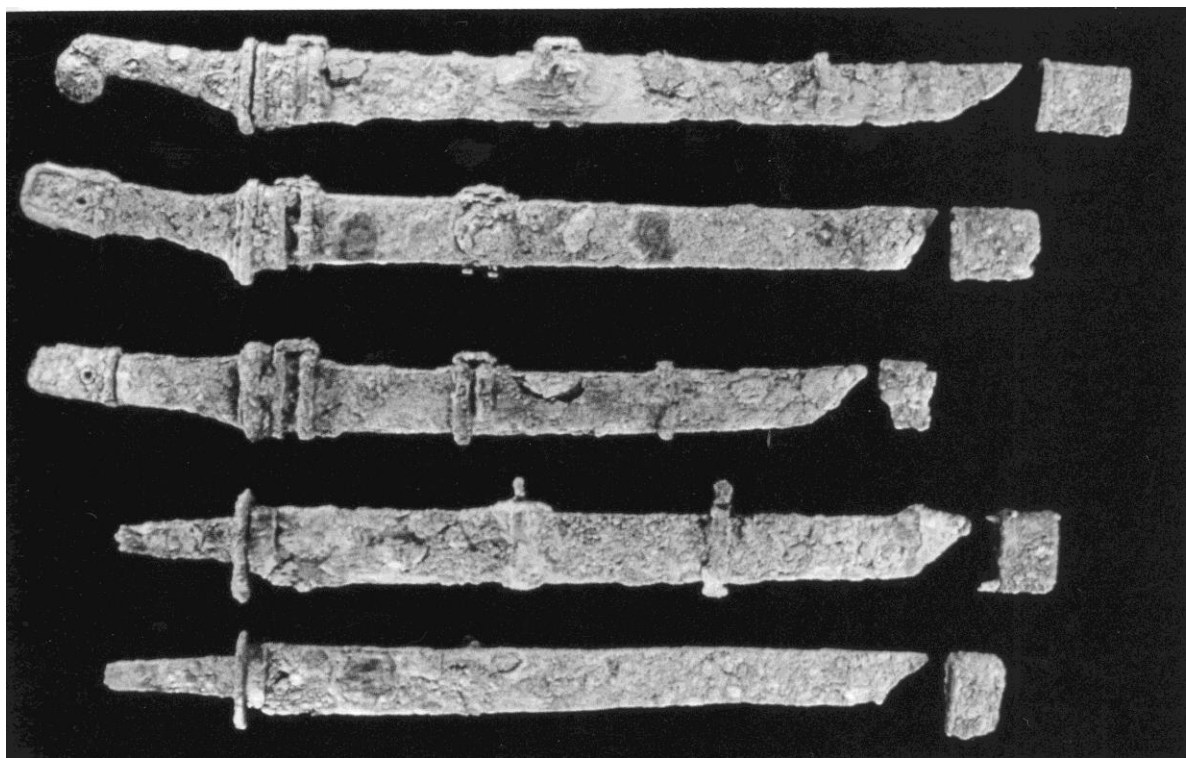
図1 奥越羽三国の地区区分

【△：城柵による律令支配の侵攻】

「図1 奥越羽三国の地区区分」：今泉隆雄(2011)「古代の南奥—南奥の地域的性格—」『平成 22 年度福島考古学会第 53 回大会』発表要旨、p. 9、福島考古学会

「各種の刀剣類 ●古墳時代から奈良時代」佐々木清文(2000)「蝦夷たちの南北交流 各種の刀剣類」『いわて未来への遺産 遺跡は語る 旧石器から古墳時代』、p. 234、岩手日報社

各種の刀剣類 ● 古墳時代～奈良時代



▼山田町房の沢古墳群出土の刀剣類

沿岸地方の長根古墳・房の沢古墳は、ともに北上川流域の古墳に比べ多くの刀剣類が副葬されている。

宮古市・山田町・大槌町は古代の製鉄関連遺跡が多く、特に山田町では八世紀代には製鉄から鍛冶加工まで行われていたことが明らかになっている。

蔵手刀（わらびてとう）をはじめとする刀剣類がこの地で作られたかどうか明らかではないが、当時の蝦夷（えみし）が使用する鉄製品の重要な生産地であったことは疑いない。

刀剣の種類は刀身が湾曲しない直刀や柄部（つか）の形態が若干反り返り、柄頭の形状が方形状をなす方頭太刀や柄の先端が早蔵状（はやぞうじょう）に丸くなった蔵手刀などがある。方頭太刀の中には、柄が鼓のように絞り込まれた形状をした立鼓刀（りゅうことう）と呼ばれるものもある。

全長が六十センチ以下のものが多いが、刀幅も広く厚みもあり、がっしりした感じを受ける。実用的な地元の製品とみたい。

蔵手刀は国内の出土総数の六～七割が東北地方にあることから、東北地方で生産されたという考え方や、刀身と柄の傾きや反りから日本刀の原型になったのではないかと考える方があった。しかし、蔵手刀を集成し、形状や刀装金具の形態などを研究した八木光則氏により上信地方で発生したとされる。

（佐々木清文）

★「特に山田町では八世紀代には製鉄から鍛冶加工まで行われていたことが明らかとなっている。」との一文に注目！

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 689 集

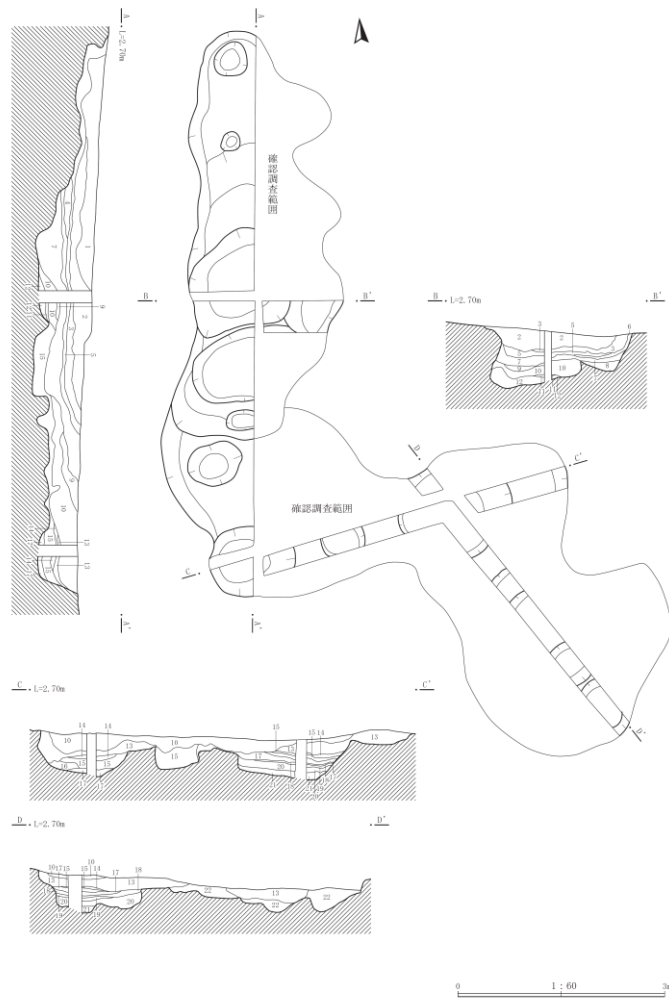
はまかわ め さ わ だ
浜川目沢田 I 遺跡発掘調査報告書

大沢地区漁業集落防災機能強化事業関連遺跡発掘調査

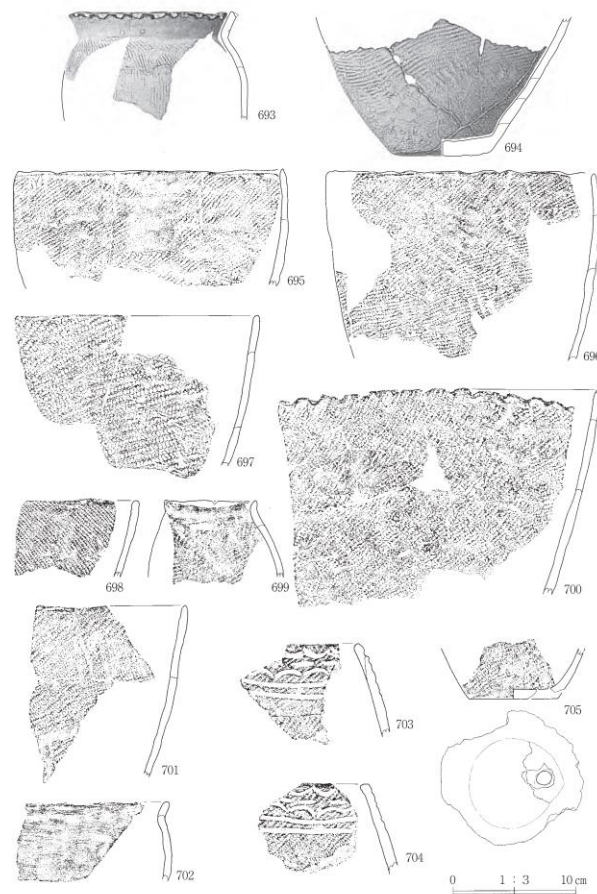
（第 1 分冊 本文・遺構図版・遺構内出土遺物図版）

【浜川目沢田 I 遺跡の挿図出典】

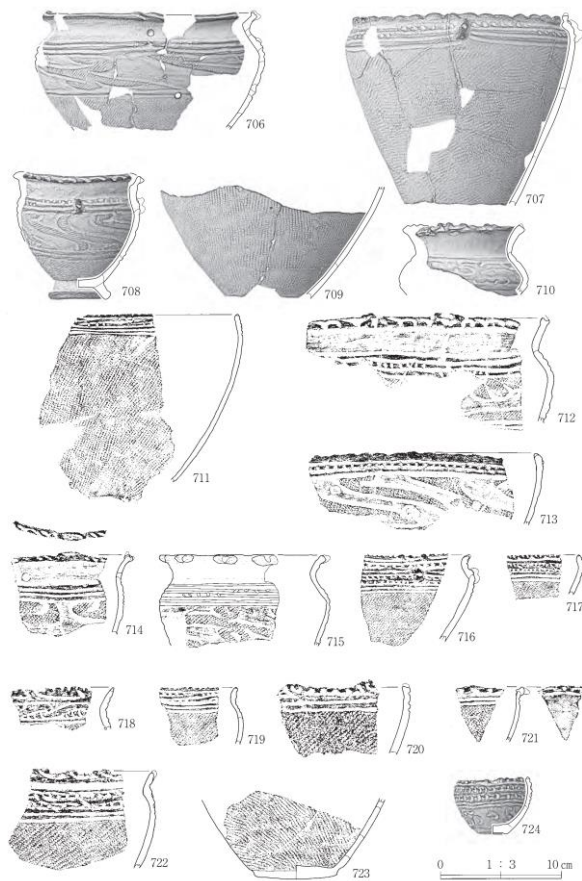
2. 「ムロさま」の頃の再葬墓について : 山田湾・浜川目沢田 I 遺跡における「大洞C1式」の「土器集積の風習」



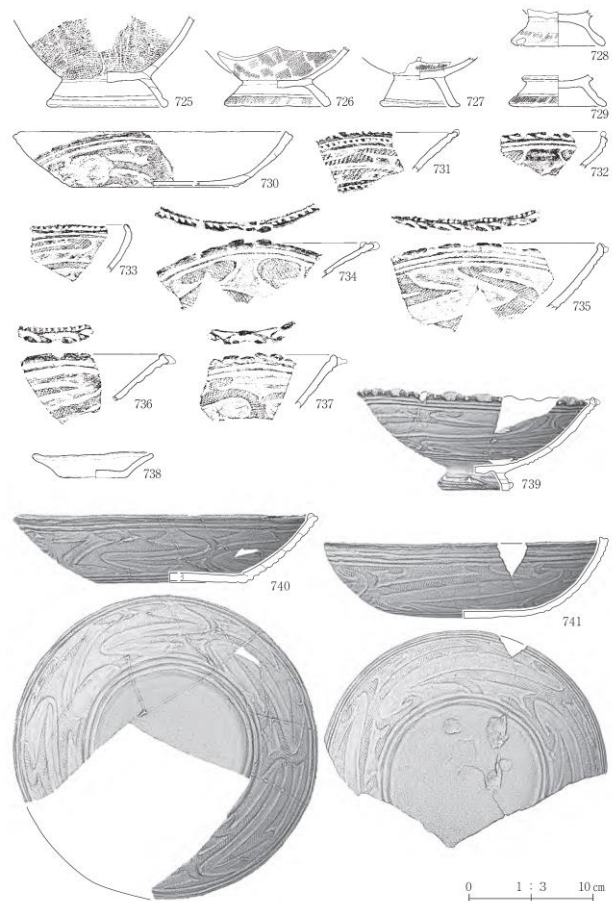
第 156 図 1 号性格不明遺構 1



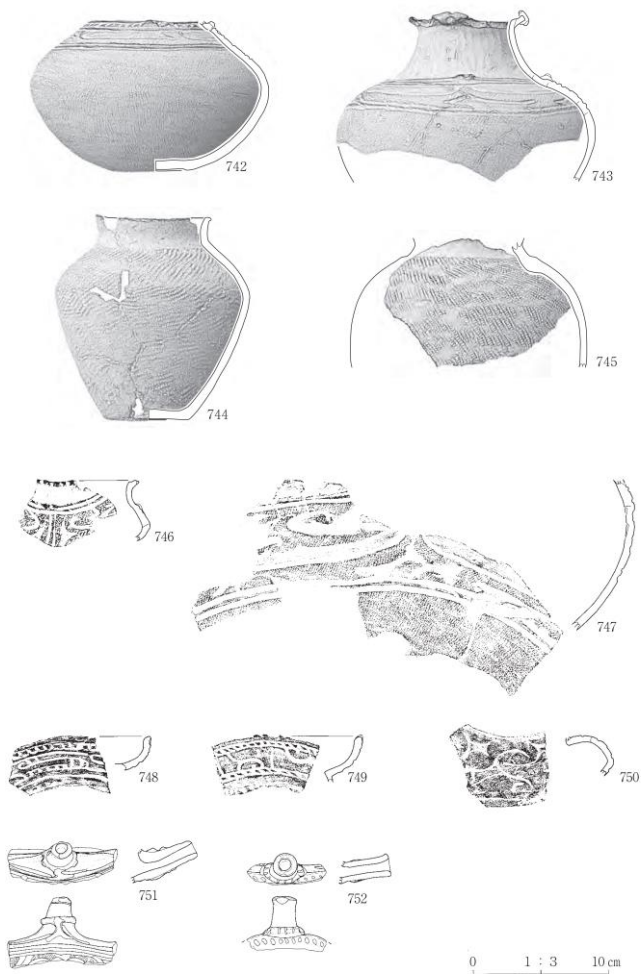
第 158 図 1 号性格不明遺構出土遺物 1



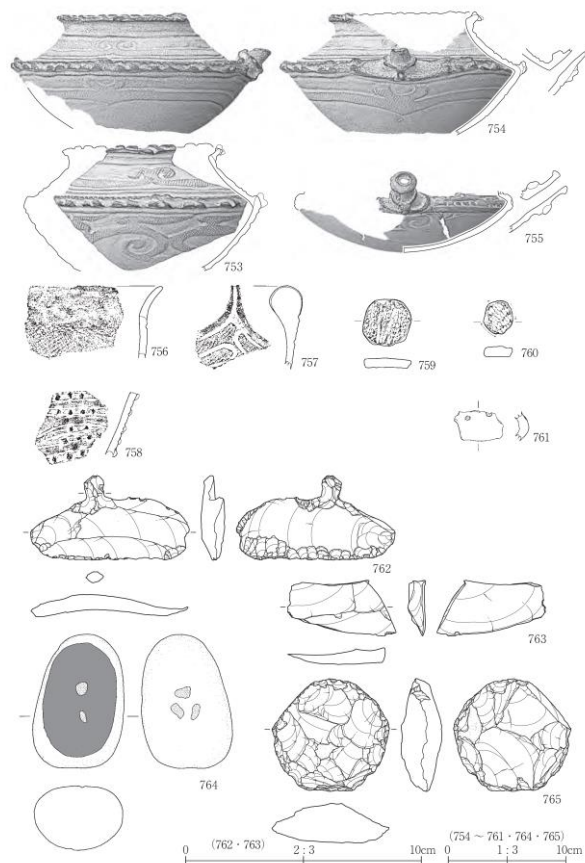
第 159 图 1 号性格不明遺構出土遺物 2



第 160 图 1 号性格不明遺構出土遺物 3

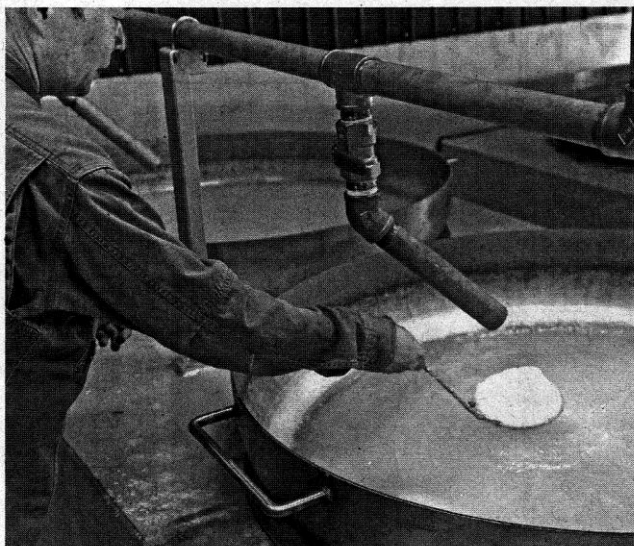


第 161 图 1 号性格不明遺構出土遺物 4



第 162 图 1 号性格不明遺構出土遺物 5

温泉煮詰めミネラル豊富



新設された製塩所で、煮詰めた温泉からすくい上げられる塩（4月19日、福島県北塩原村）

福島県・会津地方の山中で湧き出る温泉で作る「会津山塩」が人気を集めている。まろやかな味わいが特長で、カルシウムなどのミネラルも豊富。伝統的な製法のため1日約5^キしか生産できず品薄が続いたが、新設した製塩所が4月に稼働。生産量の倍増を目指している。

会津の山塩 量産狙う

4月に新製塩所稼働



同県北塩原村の山あいにある新製塩所では、約1^キ離れた大塩裏磐梯温泉から源泉をタンクに入れてトラックで運び込み、直径1^ミほどの鍋10台を使って煮詰める。5^キの塩を作るのに500^リの温泉が必要で、7、10日かけ繰り返し火にかけて結晶にする。製品は30^キの卓上用で1080円と高め。それでも購入は2カ月待ちの状態だ。生産する会津山塩企業組合の栗城光宏さん（46）は「欲しいと言

ってくるお客さんに、すぐ渡せるようにしたい」と新設に踏み切った。

塩の瓶詰めなどをする作業棟は2011年の福島・新潟豪雨を受け福島県只見町に建てられた仮設住宅の木材を再利用した。今では周辺の飲食店でラーメンや洋菓子などにも使われ、好評という。

栗城さんは「将来はゲストハウスや源泉を使った足湯も設けたい。雇用を生み出して、村おこしになればうれしい」と期待する。

4.【その他情報交換など】： 自由な意見交換とワイン・アーケオロジー

4-1. 日本考古学協会第84回総会・研究発表会や図書交換会の話題

- ・研究発表はレジュメによる限り、内容は縦割りで小粒となり、論争を巻き起こすような骨太の年代横断的な研究発表は姿を消しているようです。他方で本来の研究発表に相当する内容がセッションとしてテーマ化され、発表者が多数に水増しされ、院生ゼミのように冗長になった印象が強いです。埋文向けのパブリック・アーケオロジーか？総じて21世紀の日本考古学協会は「学者絶滅の時代」と象徴化されてしまうでしょう。
- ・レジュメで瞥見した明治大学のセッションには杉原荘介の弥生時代基準資料が抜けていますし、更に法堂遺跡についてはセッションの趣旨とは大きく懸け離れている印象もありますので、開催校としての知の結集を訴求するとは言い難いように感じます。有体に言えば、開催校でも何かテーマを一つということでしょうか。
- ・セッション4「縄文時代初頭の「居住」とその評価」とセッション6「弥生時代早期を再論する」はそれぞれに参加された方からの報告をお楽しみに。前者はお子様向け、後者は反論のための幼稚な科研費反論でお仕事の延長、結果として九州・早期と畿内・前期という枠組みを畿内中心説から再確認したに過ぎない。勿論、他のセッションや研究発表に触れた方には忌憚なきご感想をお願いします。
- ・図書交換会は熱気が退行気味。ワークショップの成果は以下の文献に反映されています。
『利根川』40:六十軒遺跡の「製塩土器」を紹介／「再葬祭場」という考え方を提案

4-2. 今後の日程

- ・7/27(金)ー7/29(日)： 第6回「山田湾まるごとスクール」の現地準備
- ・8/5(日)： この時期は「井出政男個展」がありますので、例年通り、日程確保依頼。
山田町から帰ったばかりで、日程上、ワークショップ開催は困難。
- ・9/1(土)ー9/3(月)： 第6回「山田湾まるごとスクール」開校(「山田湾をのぞんだ縄文むら」)
- ・10/14(日)： 第90回ワークショップ(土器型式ワークショップと「山田湾の蝦夷考古学」)

4-3. 富山県の昔から著名な土偶ですが、やはり「オムちゃん」の仲間はHP(パブリック・アーケオロジー)でも人気者！



以 上